

Supported by
日本吟舞団
THE NIPPON
FOUNDATION

●令和三年度



全国剣詩舞群舞コンクール決勝大会

来場歓迎・入場無料

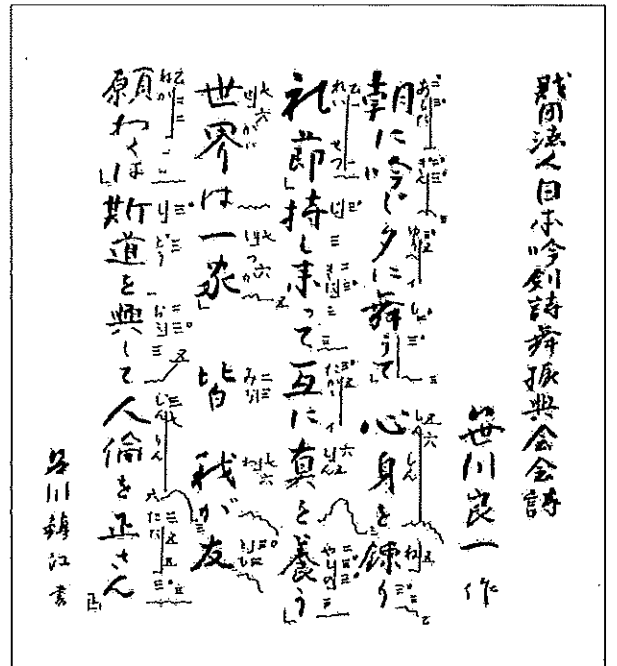
- とき 令和4年2月13日(日)
午前9時30分開場・10時15分開会
- ところ 笹川記念会館国際ホール(裏表紙参照)

主催

公益財団法人 日本吟剣詩舞振興会

大会次第

- | | |
|------------|--------------------|
| 一、開会の辞 | 一、競演「剣舞の部」 |
| 一、国歌斉唱 | 一、剣舞審査結果発表並びに入賞者表彰 |
| 一、財団会詩吟吟 | 一、競演「詩舞の部」 |
| 一、財団代表挨拶 | 一、審査講評 |
| 一、大会実施要項説明 | 一、詩舞審査結果発表並びに入賞者表彰 |
| 一、審査委員紹介 | 一、閉会の辞 |
- (注意) 一、役員集合 九時〇〇分
 二、審査委員会議 九時三〇分
 三、出演者集合 九時四〇分
- 時間厳守



令和三年度全国剣詩舞群舞コンクール
 決勝大会開催にあたって



価値ある伝統芸道の祭典

(公財) 日本吟剣詩舞振興会
 会長 沼崎 富

公益財団法人日本吟剣詩舞振興会主催令和三年度全国剣詩舞群舞コンクール決勝大会が、本日、ここに盛大に開催される運びとなりましたこと、関係者共々深く喜びとするところであります。本大会のために、早朝からご来場いただきました皆さまに対して深く敬意を表しますとともに、いろいろと準備のために奉仕してくださいました大会役員のかたがたに対しても深く感謝申し上げます。

剣詩舞は、吟詠の調べに合わせて詩歌のこころを心技を

もって表現するものであり、わが国の伝統芸道の中でも、今までの民族精神の形成に大きな役割を果たしてきたばかりでなく、これからのわが国の精神文化の高揚においても大きな期待をかけられている芸道であります。

当財団の主催する剣詩舞群舞コンクールは、この剣詩舞道の本質を追究し、併せて芸道としての向上を図るとともに、斯道のよりいっそうの振興と普及を目的として、全国的レベルで行なうものであります。

出場者の皆さまには、日ごろの精進の成果を十分に発揮され、ご来場を希望いたしますとともに、ご来場の皆さまにおかれましては、吟剣詩舞道の今日像を正しく理解され、ますます斯道に親しまれますようお願い申し上げます。

最後に、皆さまのご健康を祈念して私の挨拶といたします。

令和三年度全国剣詩舞群舞コンクール決勝大会役員

大会会長 沼崎 富
大会副会長 多田 稔

大会実行委員

池内 賢二 大田 直樹
吉田 魁桜 河野 鶴聲
大伊達 不朽 藤上 翔山
安田 水鈴 入倉 昭星
清水 錦洲 鈴木 吟亮
遠藤 晃楓 田中 国臣

☆大会特別顧問

山岡 哲山 小幡 神叡
藤原 撰楠 矢萩 鳳祥
前島 昊龍 松岡 蒨洲
廣重 光風 日置 彩峰
小野光 翠扇 山路 泰洲
向山 侑吟 山本 賀陽
安永 江悠 青柳芳 寿朗
横山 精真

☆大会参与

山本 兼正 黒田 秀月 熊木 雪洲 後藤 月戈
加藤 紫昇 宮島 神鳳 奥村 精曄 齋木 彩染
木村 風鶴 鈴木 洲玉 星野 洲虹 佐々木 翠鵬
池田 嶺煌 上久保 雪女 石井 桃苑 田中 竜真
松永 悠楓 榊原 静芳 矢澤 風慶 鈴木 凱山
石川 春洋 横田 岳理 星野 紫虹 志塚 心将
佐々木 朝鵬 菱谷 彩佑 小林 北鵬 梶 風映

☆審査委員

審査委員長 多田 正稔
特別審査委員 内田 寿子
審査委員 青柳芳 寿朗
田村天 聖月 黒田 秀月
早淵 鯉将 入倉 昭星 山本 兼正
菊川八 千穂 杉浦 英容

(県連代表)

勝部 吼嶺 梅澤 昌峰 阿部 吟鳳 中澤 春誠
颯 經風 奥脇 嶽津 薦田 南尚 白男川 朔風
高橋 瑞祥 麻生 契春 三橋 吟煌 毛塚 静精
寺嶋 城靖 栗野 電曄 鈴木 海洲 久保田 正峰
小林 岳章 渡 精華 石井 誠紀 山下 神燈
小峯 昊苑 丹治 独風 室橋 谿月
長谷部 紫昂
澤石 峯洲 梅田 錦翠 阿部 清心 斉野 岳城
寺嶋 城靖 立身 岳元 館岡 奥鵬 宮川 紫朋
粟野 電曄 高橋 瑞祥 一條 岳皇 黒田 秀月
齋藤 心晃 鈴木 海洲 瓊 經風 清水 錦洲
毛塚 静精 篠崎 興國 小松 獅劍 飯田 報信
入倉 昭星 白井 寛洲 堀口 天楓 北瀬 岳櫻
渡邊 皇洲 後藤 娟桜 松澤 天楓 北瀬 岳櫻
山田 静将 山口 華雋 堀口 孝心 鉤 正賀
古川 壽泉 藤上 翔山 楠部 紘山 北川 哲水
佐藤 翔風 中林 涼風 德田 齊山 高木 法洲
山下 明穂 濱田 翠峰 河野 鶴聲 安部 江悠
伊藤 翠鳳 藤本 誠堂 中武 玲星 向山 侑吟
日向美 代峰 金城 岳周

◎総務委員長 上久保雪女
同 副委員長 魚住 伸水
同 委員 相田 華鐘(医務担当)
◎庶務委員長 奥村 精曄
同 副委員長 松村 伯玲
◎資材管理委員長 鈴木 洲玉
同 副委員長 小池 洵風
同 委員 鈴木 誠敬
◎詩舞受付委員長 後藤 月戈
同 副委員長 黒柳 誠心
◎剣舞受付委員長 斎木 彩染
同 副委員長 木村 風鶴
同 委員 岡 眺蘭
◎連絡委員長 石井 桃苑
同 副委員長 北川 鍛星
同 委員 宇田川 彩鳳
梶原 麗修

- ◎司会委員長 田中 国臣
同 副委員長 丹治 独風
同 委員 石井 嶺亮
◎広報委員長 杉本 豊翠
同 副委員長 白男川 篤苑
- ◎舞台進行委員長 田中 竜真
同 副委員長 立田 翔善
同 委員 小林 千容
◎音響委員長 小林 岳章
同 副委員長 奥谷 宝昌
同 委員 高柳 玄山
- ◎集計委員長 熊木 雪洲
同 副委員長 高橋 嶺香
同 委員 中田 子風
同 委員 加茂 媛鵬
- ◎接待委員長 星野 洲虹
- 同 委員 河西 風慶
- 同 委員 河上 麗風
- 同 委員 石田 風章
- 同 委員 湯口 岳政
- 同 委員 志村 静紅
- 同 委員 前島 紀道
- 同 委員 中島 圓心
- 同 委員 椎名 悠鷗
- 同 委員 山崎 風洲
- 同 委員 星野 紫栄
- 同 委員 林 煌彩
- ◎賞典委員長 鈴木 吟亮
同 副委員長 藤井 伯陵
同 委員 土方 吳鶴
- ◎賞状作成委員長 室橋 谿月
同 副委員長 石井 錦文
同 委員 土田 谿耀
- ◎会場委員長 小峯 吳苑
同 副委員長 岡田 一穂
同 委員 須藤 紘誓
- ◎大会本部事務局 大田 直樹
事務局 長 大塚 政暢
事業課 長代理 鶴町 和成
総務係 長 和成
- ◎賞状作成委員長 小倉 契秀
同 副委員長 五十嵐 谿紀
同 委員 椿 谿友
- ◎賞状作成委員長 長谷川 煌研
- ◎賞状作成委員長 目黒 恭鵬

令和三年度全国剣詩舞群舞コンクール決勝大会実施要項

- (1) この「コンクール」は、わが国の伝統芸道である剣舞・詩舞道に親しむ一般並びに青少年に、日ごろの剣詩舞道精進の成果を競う場を与えると同時にすぐれた剣詩舞道人を発掘し、これを表彰して斯道の向上と普及・発展を図ることを目的とし、この「全国剣詩舞群舞コンクール決勝大会実施要項」に基づいて実施する。
- (2) 「コンクール」のチーム編成は左のとおりとする。
 - ① 一チームの編成は剣舞3名、詩舞5名とする。
 - ② 一チームのメンバーは、流派、会派等同じくすること、ただし年齢・性別は問わない。
 - ③ 同一人が二つ以上のチームに属することはできない。
 - ④ 申し込み条件及び申し込みの方法
 - I 財団加盟の流派、会派等に所属する者とし、チーム代表者の所属する県総連に申し込み、県総連が各地区連協に申し込むものとする。
 - II 東北地区大会（青森・秋田・岩手・山形・宮城・福島・新潟）

▽各地区連協出場団体数

剣舞の部	詩舞の部	北海道	東北	東日本	中部	近畿	中国	四国	九州	計
0	0	0	0	4	5	5	6	4	2	1
0	0	4	6	5	5	6	4	2	1	3
0	0	4	6	5	5	6	4	2	1	3
23	23									

- (4) 決勝大会の出場チームは公益財団法人日本吟剣詩舞振興会が主催し、その運営を各地区連絡協議会に委嘱して行なわれた(5)項の子選大会に出場して入賞し選出されたものであり、「プログラム」に記載されたチーム以外のとび込みは許されない。ただし、地区予選大会を実施しなかった地区については、当該地区連絡協議会の推薦によるものとする。
- (5) 地区予選大会の名称とその包含地域
 - I 北海道地区大会（道央・道南・道北・道東・北紋）
 - II 東北地区大会（青森・秋田・岩手・山形・宮城・福島・新潟）

III 東日本地区大会 (山梨・群馬・栃木・茨城・埼玉・千葉・

神奈川・東京)

IV 中部地区大会 (静岡・愛知・長野・富山・石川・福井・

岐阜・三重)

V 近畿地区大会 (滋賀・京都・大阪・兵庫・奈良・和歌山)

VI 中国地区大会 (岡山・広島・山口・鳥取・島根)

VII 四国地区大会 (香川・愛媛・徳島・高知)

VIII 九州地区大会 (福岡・大分・佐賀・長崎・宮崎・熊本・

鹿児島・沖縄)

(6) 全国剣詩舞群舞コンクールの地区大会及び決勝大会の出場料は剣舞一、二、〇〇〇円。詩舞二、〇〇〇円とする。

出場料は原則として返還しない。ただし、メンバー全員が幼少年(十八才未満)で構成されるチームについては決勝大会の出場料を免除する。

(7) 決勝大会の審査委員は公益財団法人日本吟剣詩舞振興会本部常任理事会で選定し、委嘱されたものである。

(8) 出場チーム演舞のルール

し、原則を著しく逸脱している場合は、減点の対象とする。

IV 舞台照明……地あかりのみ、バックはホリソント(白色)使用を原則とする。

V 演舞の要領……①司会者が出場チームの番号、代表者氏名ほか、吟題を紹介、一呼吸おいてテープが流される。②出場は上手、下手、板付いずれでもよい。また、そのタイミングも司会者の出場紹介が始まってからならいつでもよい。③振り付けは前奏、後奏を含めた全体でもよいし、詩文のみでもよい。ただし、採点の対象は、舞台出場から退場までの間の出場者の演技及び立居振舞とする。演舞終了時、舞台にある振り付けの場合でも立礼は必要としない。

(9) 「コンクール」の審査要領

I 審査基準は当財団「剣詩舞コンクール審査規定」を適用する。

II 審査の基本方針は、剣舞・詩舞は吟詠の調べに合わせて詩歌のころを演技をもって表現する芸道である。斯道の本質を踏まえ、芸としての向上を図るうえで不可欠なのは詩歌

I 出場順……申込切後、厳正公平な抽選で決定したプログラム順とする。変更は特別の事由に基づき、大会実行委員長が認めたものでないかぎり許されない。ただし、それも出場部門の競演実施中に限られる。

II 演舞吟題……指定吟題の中からあらかじめ届け出たものとし、予選、決選とも同じ演舞吟題とする。なお、その吟は財団本部作成の「平成二十五年吟剣詩舞道吟詠集」テープ及びCDを使用する。

III 衣裳と持ち道具

剣舞……①衣裳は紋付など和服、または稽古衣、はかま着用とし、なるべく簡素化したものとする。②足袋及びたすきの着用は自由とする。③持ち道具は、武器及び扇子などとする。

詩舞……①衣裳は和服、はかま着用とし、なるべく簡素化したものとする。②持ち道具は自由とし、なるべく簡素化したものとする。③扇子の型状、色彩などは自由とする。

以上の原則に準じている場合は減点の対象としない。ただ

のころを正しく理解する素養と、その技術的表現力、芸術的表現力である。この前提に立って審査の項目及び配点を、次のように設定する。

A 技術的表現力(50点配点)

① 基礎技量……30点 ② 錬磨度……20点

B 芸術的表現力(50点配点)

① 詩心表現力……30点 ② 舞台表現……20点

(10) 審査除外(失格)

I 遅刻、指定テープ外演舞、演舞放棄、その他審査委員長が失格と認めた場合。

(11) 全国大会の入賞チーム数と表彰

I 剣舞は一位から五位まで、詩舞は一位から五位までとし、会長賞その他を左記の通り授与する。

剣舞の部 一位 会長賞(持ち回り杯)・金メダル

日本財団会長杯

二位 会長賞・銀メダル

- 詩舞の部
- 三位 会長賞・銅メダル
 - 四位～五位 会長賞
 - 一位 会長賞(持ち回り杯)・金メダル

日本財団会長杯

- 二位 会長賞・銀メダル
- 三位 会長賞・銅メダル
- 四位～五位 会長賞

II 出場者全員に参加賞を授与する。

III 各部一位入賞チームは第五十二回全国吟剣詩舞道大会に於て、全国剣詩舞群舞コンクール優勝チームとして出場する機会を与える。

(12) 過去の決勝優勝チームメンバーは同部門のコンクールに再出場することはできない。

(13) 一般注意事項

- ① 出場時、刀の目釘の確認。
- ② 楽屋・ロビー等で刀を抜いてのけいこは禁止する。

- (14) 「コンクール」進行中の拍手、声援、私語雑談及び大会本部許可の報道関係者並びに記録班以外の会場内での写真撮影、ビデオテープ及びハミリ等の録画は禁止する。
- (15) 入賞チームの表彰時の服装については、着替えた場合にも礼を失しないよう注意を払っていただきたい。

※「後奏振付の注意点」
コンクール終了時間の遅延をふせぐため後奏の振り付けについては、次の点にご留意いただくことになっておりますのでご注意ください。
一、後奏いっぱい振り付けの後、あらためて退場姿勢に入った場合は減点もありうる。
二、後奏が終わった時点で、出場者が舞台上にあっても退場途中であればよい。

「剣舞の部」

◎令和三年度
群舞コンクール指定吟題

1 彰義隊 (向山黄村)	2 逸 題 (橋本左内)	3 懐 古 (釈 萬庵)	(詩 舞)
1 一乗寺に遊ぶ (伊藤仁斎)	2 筑前城下の作 (広瀬淡窓)	3 月夜荒城の曲を聞く (水野豊州)	

出演順	氏名	所 属	演 題	成 績
1	笹野拓宏 伊奈康照	東 京	逸 題	
2	鈴木文枝 鈴木寛子	愛 知	逸 題	
3	鈴木かりん			
	原 光希 原 光世	兵 庫	古	
	友井川慧照		懐	

出演順	氏名	所 属	演 題	成 績
4	西原香 西原花実	兵 庫	彰 義 隊	
5	松川啓子 小澤良子	愛 知	彰 義 隊	
	加藤真			
	杉浦きよ乃	愛 知	古	
	柴田和都		懐	
	佐々木悠介			

出演順	氏名	所 属	演 題	成 績
7	佐々木伸孝 城平エバ	広 島	彰 義 隊	
8	大里彩乃 大里史子	大 阪	彰 義 隊	
	磯島広海			
	小野未紗希	茨 城	彰 義 隊	
	小西征輝			
	内藤実樹			

23	22	出演順
永森建 田菜凍部 桜華花実	稲今齊 葉井藤 友敦有 希子貴	氏名
愛知	兵庫	所属
逸題	彰義隊	演題
		成績

12	11	10	出演順
早山石 田田田 栄貴泰 幸己範	松菅友 本富士川 文子友	富井西 田上川 皓結新 也希吾	氏名
大分	兵庫	愛知	所属
逸題	懐古	懐古	演題
			成績

26	25	24	出演順
石玉山 川熊川 琳紗明 梨朱美	十島山吉 河田本岡 子千英笑 子尋子子	黒河清山 川端水田 和名早幸 子加子苗子	氏名
茨城	香川	愛媛	所属
一乗寺に遊ぶ	筑前城下の作	月夜荒城の曲を聞く	演題
			成績

15	14	13	出演順
山東中 脇平五 由伸苗 紀彦	林小竹 大島森 輔隆裕 仁二	増増坂 井井上 康康章 二康高 二高	氏名
高知	広島	兵庫	所属
彰義隊	逸題	懐古	演題
			成績

29	28	27	出演順
牧小灘山 谷野部山 祥弘鈴み 子子子	中若藤谷大 津本岡口本 一未知洋ヨ 美恵子子子	練川田高松 尾口中美山 加弥生紅知 美生紅子子	氏名
東京	広島	岡山	所属
月夜荒城の曲を聞く	月夜荒城の曲を聞く	筑前城下の作	演題
			成績

18	17	16	出演順
酒丸渡 井嶋辺 望敏恵	橋多梶 場嘉瀬 由良幸 喜銀子	高中赤 橋西石 菜柔大匠 大匠希	氏名
東京	東京	群馬	所属
彰義隊	逸題	彰義隊	演題
			成績

32	31	30	出演順
友大友友友 井石井井井 川知川川川 慈頭子美子子	吉柴柴永佐 川田田井野 真絵聡恵多 央梨讓子	加池小上上 藤田倉岡岡 智音萌生治 凜音萌生治	氏名
兵庫	愛知	三重	所属
月夜荒城の曲を聞く	月夜荒城の曲を聞く	筑前城下の作	演題
			成績

21	20	19	出演順
五根五 月月月 女女女 智智智 仁仁仁	向城森 山戸崎 諒美飛 一智悠 代雅	梯渡梯 大邊陽 和一郎 大和	氏名
栃木	福岡	長崎	所属
逸題	彰義隊	逸題	演題
			成績

「詩舞の部」

46	45	出演順
岡岡岡岡阿 村田崎田部 風武羽雪相 輝龍未花太	鶴森荒荒武 田内崎崎田 詩爽春有富 織月奈紀久 代	氏 名
大分	神奈川	所 属
筑前城下の作	一乗寺に遊ぶ	演 題
	45	成 績

35	34	33	出演順
吉小太田風 澤林田村原 縁め紗笑航 みく代愛輝	岡古濱北永 村田田村富 虹琉大 輝舞仁学樹	池三中加日 田木嶋来野 悠絢隆貴久 希菜子子代	氏 名
東京	大分	福岡	所 属
月夜荒城の曲を聞く	筑前城下の作	一乗寺に遊ぶ	演 題
			成 績

38	37	36	出演順
小前戸川中 北川田口嶋 杏真稚実将 奈実菜季之	三桂平冲桂 輪田西日照 優美登照み 月優子美か	相塩塩長岩 星見田澤田 史規由美侑 子子実咲希	氏 名
福井	兵庫	京都	所 属
一乗寺に遊ぶ	筑前城下の作	月夜荒城の曲を聞く	演 題
			成 績

41	40	39	出演順
中建中大大 川部菜方部 望有々々光 美咲美海咲	小今田小八 川久畑林木 古保直範秀 都伸美子美 乃二美子美	三蟻逢間柳 角正坂野本 園正久薫佐 幸代子明子 重子子子子	氏 名
愛知	京都	岡山	所 属
月夜荒城の曲を聞く	月夜荒城の曲を聞く	月夜荒城の曲を聞く	演 題
			成 績

44	43	42	出演順
神神神渡渡 田田田邊邊 芽満理祐 依香帆史子	岡水安松永 崎川井美岡 啓政智永 子重子子子 子	半西太多 田真田田 恵理雅麻 子子子衣 世	氏 名
静岡	岡山	大阪	所 属
月夜荒城の曲を聞く	月夜荒城の曲を聞く	筑前城下の作	演 題
			成 績

予 告

●第四十九回全国少壮吟詠家

審査コンクール決選大会

▽とき 令和四年三月十三日(日)

▽ところ 笹川記念会館

(東京都・港区三田)

●第五十二回全国吟剣詩舞道大会

▽とき 令和四年五月五日(祝日)

▽ところ 北とびあ・さくらホール

(東京都・北区王子)

●令和四年度夏季吟道大学(予定)

▽とき 令和四年七月十六日(土)

▽ところ 勤労青少年水上スポーツセンター

(愛知県・碧南市)

月刊『吟と舞』ご購読のお願い

月刊誌『吟と舞』は、指導者および一般愛好者の皆さんに不可欠の吟剣詩舞道界の幅広い情報誌として、また、教養誌として発行されています。

購読料は年間五、〇〇〇円(送料込)です。お申し込みは、公益財団法人日本吟剣詩舞振興会事務局『吟と舞』係あて、購読料を添えてお申し込み下さい。

どなたでも購読できます。どうぞ、お気軽にお申し込み下さい。

全国剣詩舞群舞コンクール決勝大会優勝チーム一覽表

昭和六十年年度

〈剣舞の部〉

小野 尊由
八木 保博
瀧 吉治

(兵庫)

〈詩舞の部〉

小野真智子
原 京子
大持恵美子
米倉 啓子
石原 明子

(兵庫)

昭和六十二年年度

〈剣舞の部〉

入倉 幸一
城所 紀彰
長谷川勝生

(愛知)

〈詩舞の部〉

亀井 美乃
安藤 裕嗣
堀 友紀
安藤 由記

(愛知)

平成元年度

〈剣舞の部〉

加司 和博
西村 朗子
山田 満稀

(大阪)

〈詩舞の部〉

石原 明子
小西 悦子
酒井 玉美
松本 房子
松本 桂子

(兵庫)

平成三年度

〈剣舞の部〉

杉浦 裕美
建部 司
大日方里美

(愛知)

〈詩舞の部〉

藤上 桂子
田中 佳子
中島 祥子
宇野 智美
片山 陽子

(岡山)

平成五年度

〈剣舞の部〉

林 季永子
山口加奈子
尾崎 里恵

(愛知)

〈詩舞の部〉

長坂 紗織
長坂恵里子
関 みのり
荒谷早智子
淡谷 亮太

(愛知)

平成九年度

〈剣舞の部〉

大道 学美
辨天 繁和
多田 和晃

(大阪)

〈詩舞の部〉

蟹江 功子
佐々木京子
大野 晶子
長坂 理絵
鈴木 宏実

(愛知)

昭和六十一年年度

〈剣舞の部〉

安藤 裕嗣
安藤 由記
堀 友紀

(愛知)

〈詩舞の部〉

杉浦 裕美
天野 利香
中村 里抄
今井喜久子
大日方里美

(愛知)

昭和六十三年年度

〈剣舞の部〉

広田 光次
村田 栄一
滝川 知昭

(愛知)

〈詩舞の部〉

田中小枝子
岸本 晴美
秋山 愛子
中尾 章子
川口由紀子

(岡山)

平成二年度

〈剣舞の部〉

森下 裕紹
伊藤 由康
伊藤 修司

(愛知)

〈詩舞の部〉

入倉 幸一
城所 紀彰
長谷川勝生
鈴木 一人
永井 基靖

(愛知)

平成四年度

〈剣舞の部〉

熊谷 公江
中神 友佳
中野 琴子

(愛知)

〈詩舞の部〉

建部 司
大岡 史帆
山本 智美
石渡 千紘
岡本菜穂子

(愛知)

平成七年度

〈剣舞の部〉

近藤 聡司
近藤 敦司
淡谷 亮太

(愛知)

〈詩舞の部〉

森下 裕紹
伊藤 由康
伊藤 修司
中神 友佳
中野 琴子

(愛知)

平成十一年度

〈剣舞の部〉

伊藤 明
伊藤 武
亀田 功治

(愛知)

〈詩舞の部〉

小野 藍子
田辺富士子
田辺 小泉
田辺 文
原 優子

(兵庫)

平成十三年度

〈剣舞の部〉

大岡 史帆
長坂 紗織
荒谷早智子

(愛知)

〈詩舞の部〉

長澤 仁美
松本 幸子
神藤 沙紀
松本 典子
阿部 沙織

(愛知)

平成十七年度

〈剣舞の部〉

長澤 仁美
松本 全伸
阿部 沙織

(愛知)

〈詩舞の部〉

原 歩
梶原いずみ
平田 陽子
三宅 絢子
坂本 夏樹

(岡山)

平成二十一年度

〈剣舞の部〉

永井 聡多
永井 謙
高橋 聖史

(愛知)

〈詩舞の部〉

近藤 聡司
柴田きよ乃
神尾 龍
宮崎亜由美
蟹 靖子

(愛知)

平成二十五年度

〈剣舞の部〉

石渡 千紘
長坂恵里子
中川 真生

(愛知)

〈詩舞の部〉

秋久 真希
鈴木恵美子
山本亜矢子
永岡 澄子
松尾 祐子

(岡山)

平成二十九年度

〈剣舞の部〉

上岡 雅治
上岡 隆生
堀木 映良

(三重)

〈詩舞の部〉

古田 里子
見城 真弥
宇津木三子代
恒松 綾子
山下 聖乃

(静岡)

平成十五年度

〈剣舞の部〉

大野 晶子
鈴木 宏実
長坂 理絵

(愛知)

〈詩舞の部〉

入倉 仁美
山本 薫
山本 直子
川野 佳代
石川 公江

(愛知)

平成十九年度

〈剣舞の部〉

入倉 眸
入倉真之将
入倉慶志郎

(愛知)

〈詩舞の部〉

中川 真生
服部 幸海
服部 怜海
中川 真理
服部 佳海

(愛知)

平成二十三年度

〈剣舞の部〉

大津 知紀
浦野 佳奈
高橋 勝男

(兵庫)

〈詩舞の部〉

今脇 眞弓
浅利 健代
内藤 栄子
高原 玉江
甲本美恵子

(岡山)

平成二十七年年度

〈剣舞の部〉

鈴木 一人
白石 健太
桜井 京子

(愛知)

〈詩舞の部〉

香川 桃子
神尾 舞
安藤 優
野田 麗乃
西浦 碧

(愛知)

令和元年度

〈剣舞の部〉

入倉 仁美
堀 由起子
堀 真悠子

(愛知)

〈詩舞の部〉

西浦 輝
建部 花実
野田 璃珠
大日方心海
森 凜華

(愛知)

令和四年度全国剣詩舞コンクール指定吟題

☆剣舞

(幼年・少年の部)

1 桶狭間を過ぐ

(大田 錦城)

2 書 懐

(篠原 国幹)

3 那須与一宗高

(松口 月城)

(青年・一般の部)

1 逸 題

(山内 容堂)

2 垓下の歌

(項 籍)

3 中 庸

(元田 東野)

4 北庄懐古

(芳川 越山)

5 和歌・吹く風を

(源 義家)

☆詩舞

(幼年・少年の部)

1 応制天の橋立

(釈 希世)

2 清 明

(杜 牧)

3 和歌・ふるさとの

(石川 啄木)

(青年・一般の部)

1 赤馬が関舟中の作

(伊形 靈雨)

2 生田に宿す

(菅 茶山)

3 漢 江

(杜 牧)

4 梅花絶句

(土屋 竹雨)

5 和歌・あさみどり

(明治天皇御製)

吟剣詩舞道憲章

詩歌は人の心の表現であり、すぐれた詩歌は人類文化の遺産である。われわれの先達は、この詩歌を吟じ、その吟により舞うことを考え、芸としての向上進歩を目ざして精進努力を重ね、吟詠・剣舞・詩舞というわが国独自の高雅な芸道を育てあげた。

吟剣詩舞道は礼と節を、その心とする。詩歌に親しんで情操を高め、日本民族の心を探究しながら自己の陶冶を志向することの芸道こそ、わが国の精神文化の高揚に不可欠のものである。

われわれは、この価値ある吟剣詩舞道を受け継いだことに大きな誇りをもつと同時に、各人の研鑽と相互の協力によってますます斯道を隆盛に導く責任を果たさなければならない。しかも、その実践は、この芸道の心、すなわち礼と節の上にたたなければならない。その軌範として、この憲章を制定する。

昭和五十年一月十一日

公益財団法人日本吟剣詩舞振興会

会長 笹 川 良 一

ほか 役員一同

一、基本姿勢

吟剣詩舞道を行なう者は、礼と節とを行動の軌範とし、日々、芸の研鑽と品性の陶冶に努める。

二、指導者の心構え

吟剣詩舞道を指導する者は、みずから師たるにふさわしい人格、識見を備え、指導全般にあたっては権威をもって臨む。

三、師に対する心構え

吟剣詩舞道を学ぶ者は子弟の礼節をわきまえ、秩序を堅持する。

四、分家・独立

吟剣詩舞道を行なう者が分家・独立する場合は、その組織を代表する者の許しを得る。

五、他流との関係

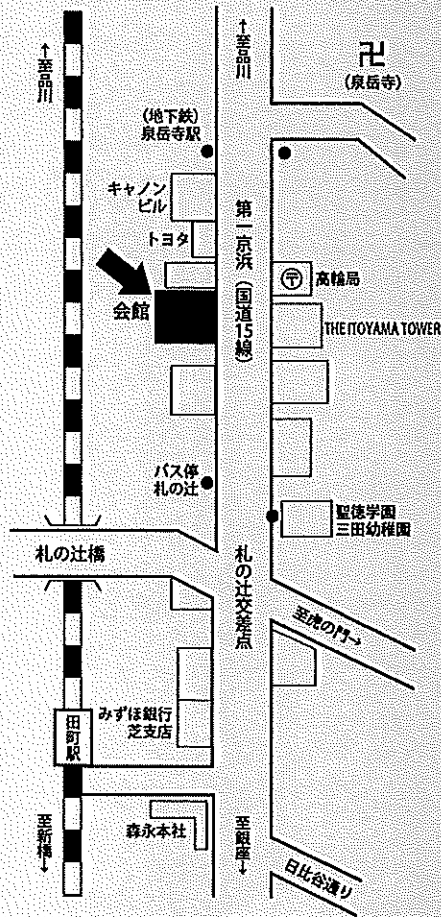
吟剣詩舞道を行なう者は他流の名譽を傷つけ、秩序を乱すような言動は厳に慎む。

六、吟剣詩舞道の普及向上

吟剣詩舞道を行なう者は、大衆性と芸術性とを併せもつ斯道の今日像を正しく伝え、特に青少年層における吟剣詩舞道の普及向上に努める。

七、吟剣詩舞道の目標と相互の協力

吟剣詩舞道を行なう者は、相互に協調、互譲の精神をもって斯道の普及振興に協力し、本会の認める姉妹団体とも動物有機体的団結をもつて日本の伝統に基づく国家社会の正しい発展に寄与する。



笹川記念会館

〒108-0073 東京都港区三田三丁目12番12号 TEL.03(3454)5062
 (最寄駅) ●JR田町駅(三田口)より徒歩約10分
 ●地下鉄都営浅草線、泉岳寺駅より徒歩約7分

公益財団法人 日本吟剣詩舞振興会
 〒105-0001 東京都港区虎ノ門3-4-10虎ノ門35森ビル7階
 電話 (03) 6721-5950 (代表)
 FAX (03) 6721-5960